

(141) 栃木県鹿沼市の落平と河原小屋近傍の鉾山 (落平鉾山？、不動鉾山？、大滝鉾山？)

参考文献(1)には、大芦川の上流の落平地区と河原小屋地区にあった落平鉾山、不動鉾山、大滝鉾山についての解説がある。共に、銅・鉛・亜鉛鉾床である。各鉾山の場所の記述が余りにも大雑把であったので、探査できないでいた。が、数年前、ドライブ・ハイキングがてらに、現地付近を訪問した。その時、道路脇に「鉾山沢」という看板があるのを見つけた。道路を横切っている沢の名称である。名前からすれば、当然鉾山のあった沢に違いないと考えた。沢に降りて、転石を探してみた。どうにか、鉾染した転石を見つけた。これに勇気づけられ、短時間であったが、沢を登って行った。が、他の転石も見つけられず、何の成果も得られないまま、時間切れで途中で戻った。東大芦川の更に上流にある「大滝」までは一応訪問しておこうという予定であったので。これが1回目の探査となった。

やはり、「鉾山沢」の上流が気になっていた。3月下旬となり、雪解けも進んでであろうと、2回目の探査に出かけた。予想通り、鉾山沢の、前回登り上がった先の上流で、坑口跡とズリを確認した。

「鉾山沢」を降りてきてから、この沢の北側にある「馬道沢」も探査してみた。沢の入口で閃亜鉛鉾らしい鉾物がついている小さな転石を見つけた。それに期待を持って沢を登って行った。倒木が多かったが、どうにか、「鉾山沢」の坑口があった当たりまでの標高まで登り上がった。が、転石さえ見つけることができなく、沢の探査を終了した。

後日、気になっている他の沢の探査に出かけた。蕨平橋の下流付近で、川の右岸にある沢である。橋のあたりから川に降りて、少し下流に下ると、探査予定の沢が右手に直ぐに見つかった。が、沢口に立つと目の前に落差の大きな滝があった。落差は10m以上もある。兩岸も切り立っているので、大幅に迂回をしないと上流へは行けそうもない。迂回は大仕事。上流に鉾山があれば、下流にはきっと鉾石の転石があるはずと考え、とりあえず、滝の下当たりで転石を探した。何の鉾石らしいものも見つけられなかった。無理に、この滝の上流に行くこともないと判断した。

が、周りを見渡すと、本流の左岸の、河床水準の岸壁中に坑口跡らしい黒い穴を見つけた。近づいてみると、坑口跡らしいが、奥の少し先で、行き止まりになっている。何のために開削したのであるか？ とにかくこのあたりに何かあると注意深く周囲を探索すると、先ほどの沢の沢口の少し下流に、2箇所、坑口跡を見つけた。1つは河床水準、もう1つは少し高い所。後者の坑口前で鉾染状の転石を見つけた。

実は、この場所の少し下流には高さ10mほどの砂防ダムがあり、河床がその高さまで土砂、岩石で堆積し尽くされている。従って、坑口の高さが、現在河床水準であると言うことは、砂防ダムがなかった時代には、坑口は河床より数m以上の高さにあったことになる。かつてあった他の坑口は、砂防ダムの建設による土砂の堆積で隠れてしまったとも考えられる。

以上の通り、2箇所、鉾山跡を確認した。これらは文献(1)で紹介されている落平鉾山、不動鉾山、大滝鉾山のどれに当たるのか？ 今のところ断定できる根拠がない。文献には、落平地区に落平鉾山、河原小屋地区に不動鉾山と大滝鉾山があると記されている。生憎確認した2つの鉾山跡は、落平地区と河原小屋地区の中間当たりにあるからである。確認した2つの鉾山跡の南方或いは北方にもう1つの鉾山跡が確認できれば、鉾山名が確定できそうである。しかし、このあたりには鉾脈が少なくはなさそうなので、文献には記されていない小さな稼働した鉾山もあったかもしれないので、探し出してもそのままでは鉾山跡の名称の確定は難しいと思われる。その1つには、落平橋から上流の右岸側の河床水準に、奥行きのない1つの坑口跡を確認しているからである。残念ながら、地形図中にこの場所を書き入れることを失念していた。現場の写真は撮っていたのであるが。そのうちに、これらの再確認のために、再探査をするかもしれない。

現地への経路は次の通りである。鹿沼市中からならば、14号に従って、西行し、そして大芦川に沿って、西北に進んでいく。58号に入り、そのうちに、前方に道路を跨いでいる大きな鳥居が見えてくる。その直前に、大芦川に架かっている橋があるが、それを渡らず、川に沿って延びている右手の側道に進んでいく。後は道なりに進んでいく。道路は東大芦川に沿って北上するようになる。白井平、川中島を過ぎ、川中島から1km弱で蕨橋に達する。ここが、1箇所の鉾山跡への入口である。車を置き、橋の脇から河床に降りて、下流に進む。もう1箇所への鉾山跡へは、蕨橋から更に道路を0.3km程進んでいく。右手に「鉾山沢」の指導標がある。車を置き、ここから右手にある沢に入っていく。」

2015年 3月探査

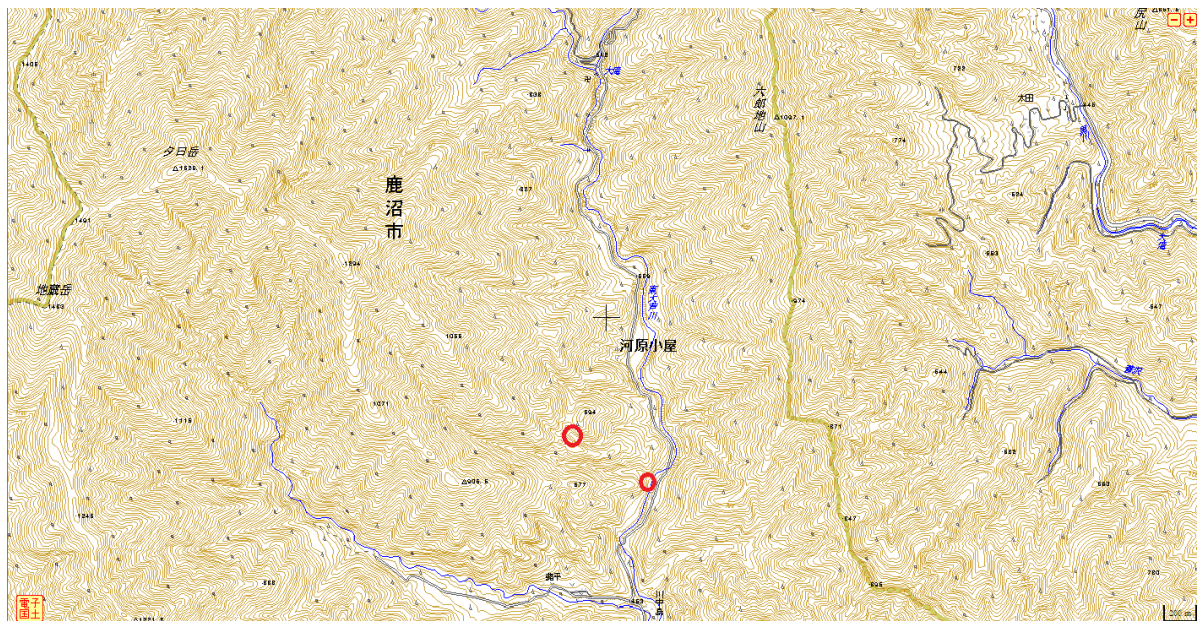


図1 国土地理院の地図サービスより複写掲載。赤丸のところが確認した2箇所の鉱山跡。共に、落平地区と河原小屋地区の中間あたりにある。図中の中間上部に、名瀑「大滝」がある。その少し左に社記号がある。不動尊神社があった。

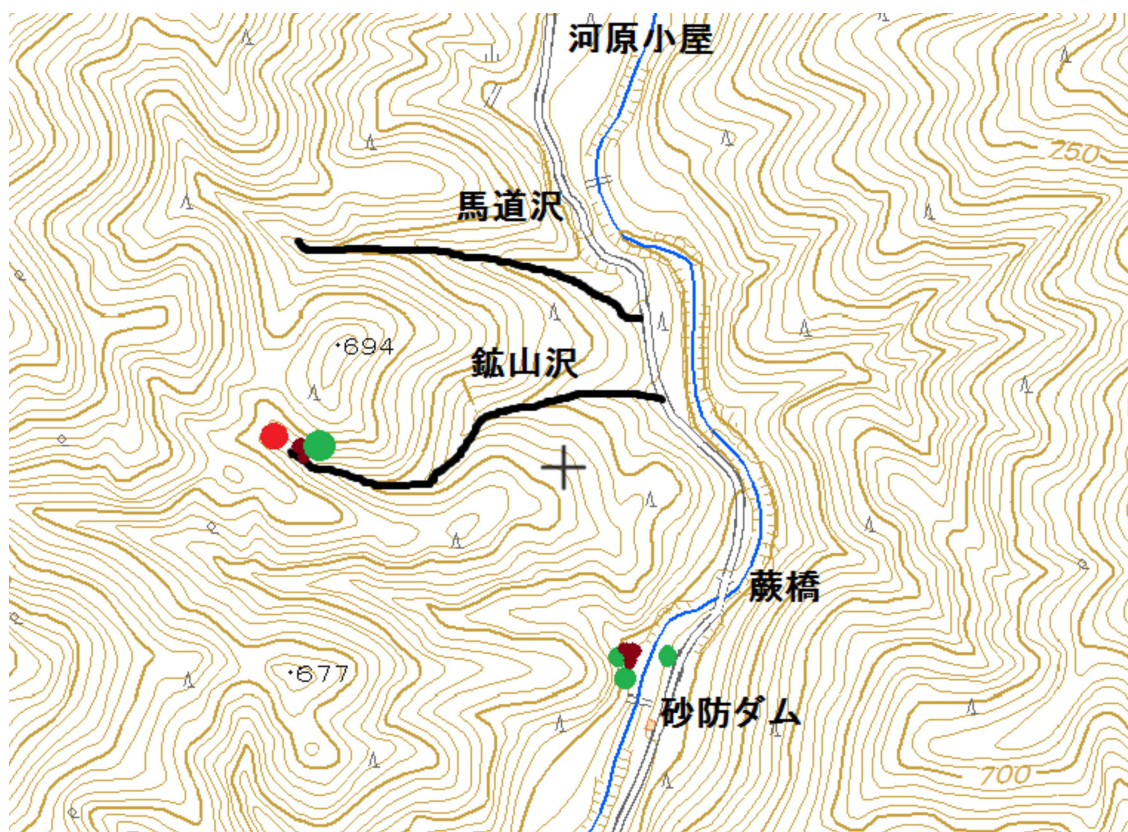


図2 図1の部分拡大図。黒色で道を書き込んでいる。確かな林道ではない。沢に沿って登って行く。黄緑色丸は坑口跡、茶色がズリ、赤丸はプラトー跡。馬道沢は入口で、閃亜鉛鉱が付いている転石を見つけたが、それ以外の成果はなし。蕨橋から河床に降り、水量が多くなければ、鉱山跡へは容易に行き着ける。河原小屋地区は、川の右岸に開けた比較的水平な土地である。確かではないが、かつて足尾鉱山に関係した施設などがあったと聞いている。現在は原っぱ状であり、施設跡らしい何の痕跡も見つけれないが、道路脇には幾つかの小さい石の社、石碑等があるだけである。

鉾山跡写真



写真1 川中島からやって来た。道路右側に、看板「鉾山沢」が立っている。この沢を登って行く。



写真2 鉾山沢を登って行った。沢が分岐する所手前、左岸に、坑口を見つけた。周りは倒木だらけである。中央の黒い穴がそれである。



写真3 坑口入口付近の様子。水没している。



写真4 坑口跡少し上流の沢の分岐点の所には「人工」的なプラトーがあった。石垣らしいものもある。鉾山施設跡のような気がする。



写真5 蕨橋である。橋の下流をよく見ると、旧蕨橋が残存していた。このあたりから東大芦川の河床に降りる。



写真6 河床に降り、下流に下っていた。右岸にあった、結構落差のある滝。この付近で、3箇所坑口跡を確認した。

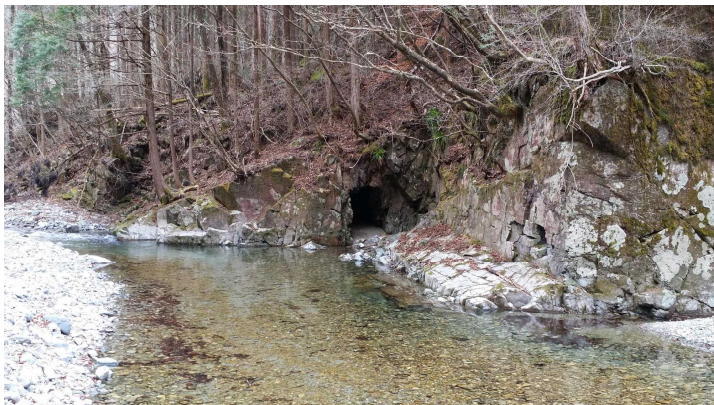


写真7 坑口跡の一つ。川の左岸にあり、位置は河床水準である。この当たりの河床は平である。下流に砂防ダムがあり土砂が堆積していることによる。

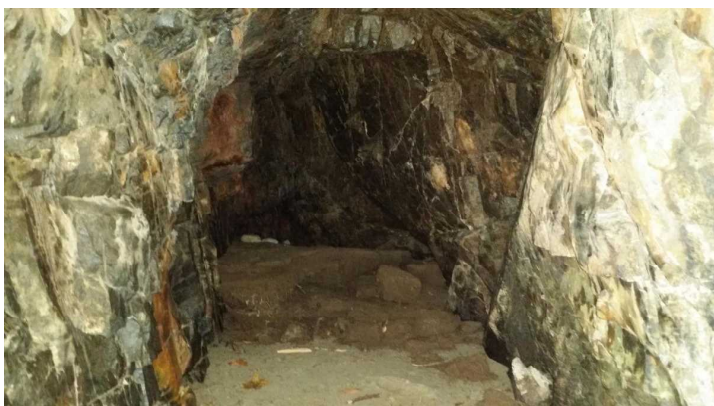


写真8 写真7で示した坑口の内部の様子。奥は深くはない。河床の上昇か、川の増水で、埋まったのかもしれない。



写真 9 川の右岸にあった坑口跡。中央のかまぼこ形の黒い所。川の流量が少なければ、簡単に近づける。

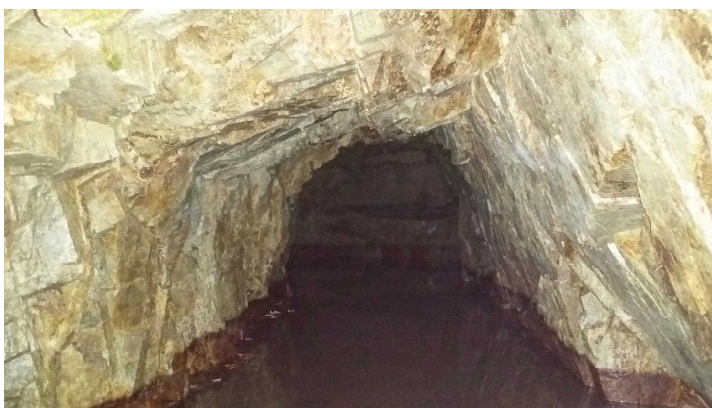


写真 10 写真 9 で示している坑口の入口付近の様子。非常に綺麗である。水が溜まっているが、入口の土砂を取り除けば排水するのではないかな。

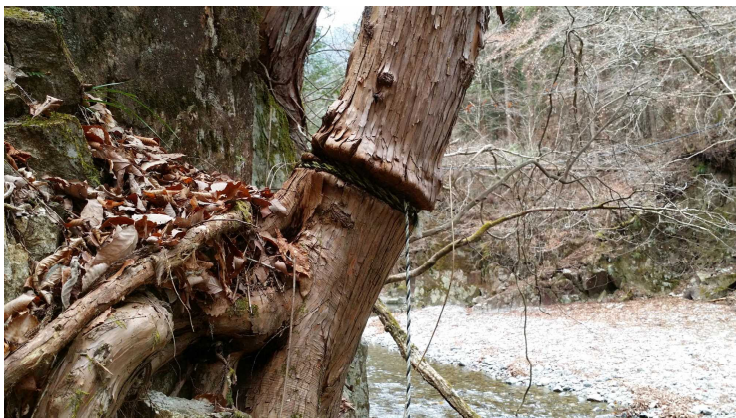


写真 11 坑口の右手にあった杉の木。ゼブラ模様の作業用ビニールロープが、幹に食い込んでいる。どれほどの時間が経過したのであろうか。



写真 12 写真 9 で示した坑口跡の少し右上にあった坑口跡。中央の黒い部分。



写真 1 3 その入口付近の様子。

鉱物写真



写真 1 4 写真 1 2 で示している坑口の前で、鉱染状の岩塊を見つけた。

付録写真

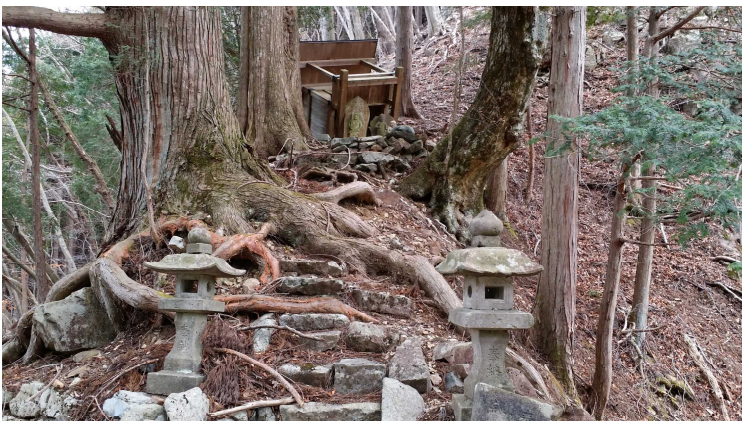


写真 1 5 現地の東大芦川上流の観光名所「大滝」の近傍にある「不動尊」。社は横倒しとなっている。多分強風によるものであろう。動かそうとしたが、重くて 1 人では無理であった。大滝の少し先で林道は分岐している。左側に進んでいくと、駐車場らしい箇所がある。ここに車を置ける。目の前には、無人のヒュッテもある。神社へは、この所から川を渡り、目の前の斜面をジグザグに登っている。山道は辛くも残っている。

参考文献

(1) 「日本地方鉱床誌 関東地方」、今井、河井、宮沢、朝倉書店、昭和 4 8 年(1 9 7 3 年)。